

「主な取組」検証票

施策展開	3-(8)-イ	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興	施策	① 商店街・中心市街地の活性化と商業事業者の振興
			施策の小項目名	○商店街・中心市街地の環境整備
主な取組	コミュニティ道路整備事業			
対応する主な課題	①大型店舗との差別化を図り、商店街・中心市街地を活性化させるには、地元自治体のイニシアティブのもと、商店街と地域住民等が密接に連携・協働した取組を促進するとともに、その活性化に不可欠な地元住民や観光客などの購買意欲を喚起する様々な取組を主体的・継続的に行っていく必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
商店街や学校施設等が沿道に立地し道路幅が厳しい生活道路において、歩行者が安全で快適に通行できる空間を確保するため、車輛を一方通行にし、歩道の幅を行う道路整備（コミュニティ道路整備）を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		1箇所整備				供用開始
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		コミュニティ道路の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
公共交通安全事業								OR3年度： 久米島空港真泊線において、関連する無電柱化推進事業との調整等を行った。
一括交付金（ハード）	直接実施	5,432	4,238	532	32	0	0	一括交付金（ハード） OR4年度： 久米島空港真泊線において、コミュニティ道路整備に必要な他事業との調整や用地取得に向けた地域の合意形成を図る。
予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
								OR3年度：
								OR4年度：

活動指標名	コミュニティ道路の整備				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	0	順調	久米島空港真泊線において、関連する無電柱化推進事業との調整等を行った。
	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	供用開始	供用開始	100.0%			
活動指標名					R3年度			0	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 久米島空港真泊線において、コミュニティ道路の用地買収、他事業との調整を行っており、整備に向けた作業が進捗し、道路上の供用手続きも完了しているため、順調としている。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・難航用地については、引き続き粘り強く丁寧に説明を行い理解を得られるよう交渉していく。</li> <li>・無電柱化推進事業の設計が終わったことから、適宜情報交換を行い、互いの整備スケジュールの調整を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業への理解が得られるよう丁寧に説明し、地権者の合意形成に努めた。引き続き粘り強く説明し、理解が得られるよう交渉を行っていく。</li> <li>・同区域で行われる無電柱化推進事業と、お互いに情報交換、進捗状況の把握を行い、整備スケジュールの調整を行った。</li> </ul>

## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・同区域で実施されている無電柱化推進事業と整備スケジュールの調整を行う必要がある。

##### ○外部環境の変化

・用地買収において、単価不満で難航している地権者がいる。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・用地買収が難航している箇所において、地域の理解、協力が得られるよう丁寧な説明を行う。

・コミュニティ道路の事業区間において、無電柱化推進事業を並行して実施する場合において、無電柱化推進事業と整備スケジュール調整を行い、コミュニティ道路としてさらなる利便性向上に向けた取り組みを行う。

### 4 取組の改善案 (Action)

・難航用地については、引き続き粘り強く丁寧に説明を行い理解を得られるよう交渉していく。

・無電柱化推進事業の設計が終わったことから、適宜情報交換を行い、互いの整備スケジュールの調整を行う。